

鹿児島港中央港区開発推進協議会平成28年度研修会 会次第

日 時 : 平成29年2月8日(水) 13:30 ~ 15:30

場 所 : 鹿児島木材産業協同組合 2階会議室

1 開 会

2 鹿児島港中央港区開発推進協議会 柴立 会長 挨拶

13:30 ~ 13:40

3 「鹿児島県の交通政策について」 13:40 ~ 14:25

講師：鹿児島県企画部交通政策課課長 仲澤 純 氏

4 「マリーナ業界の展望と東京夢の島マリーナのご紹介」

14:25 ~ 15:10

講師：スバル興業（株）マリーナ事業部プロダクトマネージャー

河西 徹 氏

5 質疑応答

15:10 ~ 15:30

6 閉 会

国へ臨港道路 事業化を要望

鹿島知事ら

鹿島県の三反園訓知事と鹿島市の森博幸市長らが31日、国土交通省と財務省を訪れ、鹿島市の鹿島港臨港道路（鴨池港区―中央港区間）の2017年度新規事業化などを要望した。写真。



池畑憲一県議会議長と保岡興治衆院議員（鹿島1区）、金子万寿夫衆院議員（同2区）、森山裕衆院議員（同5区）も同席。三反園知事らは財務省の三木亨政務官に対して、臨港道路の地図を示しトラックなどで周辺が慢性的に渋滞している現状を訴えた。ほかに志布志港国際

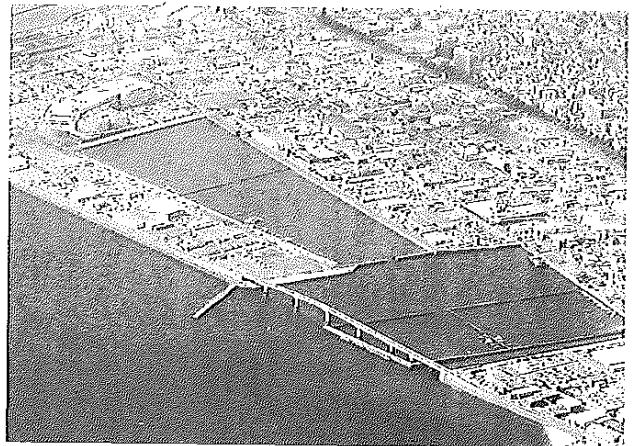
バルク戦略港湾の早期事業化や、20年のかごしま国体に向けた施設整備のための交付金の重点配分、国道10号鹿島北バイパスなどの整備促進も要望した。三木政務官は「限られた予算だが、必要なところにはつけていきたい」と応じた。
(江田裕樹)

南日本新聞 2017 2/1

どう生かす 旧木材港

鹿児島市東開町の旧木材港の活用法に注目が集まっている。一部を埋め立てる方針は決まっており、地域や関係者からはマリーナや交流空間の形成を望む声が多いが、用途は未定。どう活用して街づくりに生かすのか、県、市、関係者の連携した取り組みが待たれる。

鹿児島市東開



活用法が検討されている鹿児島市の旧木材港。貯木場などの水域約20㍍（左側）は一部を残し、埋め立てが計画されている＝2016年2月25日、本社チャーター機から荻田智史撮影

埋め立て時期・用途未定

旧木材港は、昭和40年代から輸入木材の貯木港として活用されてきた。2008年から木材の取り扱いがなくなり、県は12年以降、

活用策の検討を進めている。14年の県議会3月定例会では、旧木材港の南に位置する貯木場などの水域約20㍍の一部を残して埋め立て、民間活力を生かした空間とする方針を示した。

埋め立てには、港湾計画の変更を県地方港湾審議会に諮る必要がある。その変更のため県は16年度、1千万円を予算計上して過去の利用状況や現況に関する

地元はマリーナ要望主

る資料作成を業者に委託している。しかし、肝心の具体的な活用法は決まっておらず、埋め立て時期も明確になっていない。

鹿児島木材産業協同組合などは15年9月、鹿児島港中央港区開発推進協議会（柴立鉄彦会長）を立ち上げ、県

などに周辺地域の整備促進を働きかける。組合の脇田一朗専務理事は「事業所や勤労者が多い場所。マリーナを

含め鹿児島港が望める憩いの空間がほしい」と要望する。

全国では旧木材港の波の穏やかさを生かして、跡地をマリーナとして活用する地域も多い。開発推進協議会の

メンバーからも、マリーナ整備を求める声が多い。ヨットウーマン

の今給黎教子さんは「安全な海域が理想。木材港は波が立たない

心」と利点を語る。

ただ、県港湾空港課によると、旧木材港には、橋桁の高さが15㍍の黎明みなと大橋の下を通らねばならず、高さ13㍍を超えるハイマ

ストのヨットは通航できないという。

一方、マリーナ整備については三反園訓知事は候補地の一つに鹿児島港本港区を挙げる。県は、16年度中の候補地選定を目指し、鹿児

島港内で波や水深などの安全性、物資調達やメンテナンスの利便性などを考慮し、設置箇所を検討している。

ただ、本港区でのマリーナ設置にもハードルがある。現状では十分なスペースが確保できない上、定期航路への影響が懸念される。

旧木材港の整備は、本港区ウオーターフロントの整備と切り離して考えられない状況だ。三反園知事は「地元と協議をしながら、一番いい方法をとってきたい」としている。

協専務理事は「今はニーズに合うものが造れる宝の山状態。県と市、最大公約数で地元も納得できるものを協議してほしい」と訴える。（森山莉華子）